

令和8年度 第1回瀬戸内市地域公共交通会議 会議録要旨

開催日時：令和8年5月29日（金） 13時30分～15時05分

開催場所：瀬戸内市中央公民館 研修室

出席委員：大東会長（ノートルダム清心女子大学 人間生活学部）

村山副会長（瀬戸内市副市長）

平本委員（両備ホールディングス（株））

河田委員（牛窓タクシー）

尾崎委員（（有）ツルヤタクシー）

坂本委員【代理：千葉氏】（（有）ネイチャーワールド自動車）

福崎委員（瀬戸内市商工会）

永田委員【代理：宮本氏】（瀬戸内市観光協会）

中尾委員（瀬戸内市老人クラブ連合会）

谷田委員（瀬戸内市PTA連合会）

栃折委員（西日本旅客鉄道(株)中国統括本部岡山支社）

小林委員（中国運輸局岡山運輸支局）

内藤委員（岡山県県民生活部交通政策課）

河上委員（備前市総合政策部交通政策課）

水野委員（瀬戸内警察署）

松本委員（備前県民局建設部管理課）

出席委員 16名

委任状提出委員 4名

オブザーバー：秋山氏（（株）大町）

若松氏（備前長船刀剣博物館）

事務局：成長戦略部 平井（部長）

地域振興推進課 青砥（課長）、橘（主任）、井上（主任）寺本（主任）

観光文化戦略課 河本（参事）

建設課 近藤（課長）

1. 開会

2. 会長あいさつ

- ・市営バスの利用者が順調に増加傾向にある。4月に実施した無料チケットの利用状況についても多くのご利用を頂いた。
- ・JRについても、第2次瀬戸内市地域公共交通計画に目標値を掲げ、利用促進に取り組んでいる。
- ・市内交通網を更によりよくするため、会議において積極的にご発言をお願いしたい。

3. 報告事項

(1) 令和7年度瀬戸内市地域公共交通会議決算について

【質疑・意見等】

特になし

(2) 市営バス事業について

【質疑・意見等】

- ・市営バスの利便性向上施策の効果としての増加の様子がみられ、いい傾向。
 - ・鹿忍のバス経路変更によって鹿忍のバス利用数が大幅に上がっている。必要に応じて経路の見直しを行いつつ、改善を行っていただきたい。
 - ・今回の路線変更により、牛窓地域から邑久方面への利用者が別路線から牛窓－邑久駅線に流れている報告があったが、現在邑久駅から牛窓地域へ向かう3路線の発車時刻がそろっている現状である。3路線が別々の時刻に発車すれば、邑久駅と牛窓結ぶ交通需要を満たせる機会が増えるのではないか。
- 別地域への移動を確保するために、ハブ化している交通網のバランスや利用者の傾向を把握しつつ改善の余地があるか検討したい。
- ・小中学校の授業開始が遅くなったことなど、現状のダイヤ策定時から公共交通を取り巻く状況に変更が出ている。今後改善が図れるか。
- 小中学生以外の利用者の利便性を鑑みつつ、教育委員会と密に連携を取って検討を行いたい。
- ・増便によるコスト増もあると思うが、運賃収入が増えれば増えるほど市の負担は減っていくと考えてよいか。
- ご認識のとおり、市の負担軽減のためにも利用者の増加を図りたい。

(3) 地域内交通について

【質疑・意見等】

- ・タクシー活用事業利用券と高齢福祉タクシー利用券は免許がなければ併用可能か。
→併用は不可。両方の要件を満たす場合は高齢者福祉タクシーを優先する。
- ・物価が上昇する中、タクシー券の交付額は当初から変動がないが増額はできないか。
→運賃が上昇していることを把握している。課題意識を持って研究していきたい。
- ・タクシー券を利用した際の乗車に要した運賃の総額の把握は可能か。
→タクシー事業者からの報告により把握が可能。
- ・瀬戸内市は後期高齢者社会と言える。一方で免許がなければ生活しにくい状況がある。移住者を増やしていくためにも、公共交通の充実は必要だと考えている。特に仕事をリタイアしてから移住を考える人が一定数いるが、そのような人にとって公共交通は確実に重視される。人口減少に歯止めをかける意味でもぜひ力を入れてほしい。
→公共交通を含め様々な施策をもって移住促進を進めていきたい。

(4) JR 赤穂線の利用促進について

【質疑・意見等】

- ・関わった高校生などから利便性向上について感想がもられたか。
→サポートブックの案内をした際に、とても便利になったという感想が多く聞かれた。
- ・イベントなど JR 赤穂線利用促進に向けた施策はできそうか。
→瀬戸内市役所の向かいの土地で大規模マルシェを開催予定。
JR を活用した来場を呼びかけて、プッシュしていきたい。
- ・身近な人への声掛けだけでも JR 利用促進に繋がると考えている。引き続き協力をお願いしたい。

4. 協議事項

(1) 観光定期バスの導入について

【質疑・意見等】

- ・だがしの大町と備前長船刀剣博物館の間みの運行であるのが物足りない。牛窓にも足を伸ばすことも検討していただきたい。
- まずは観光客が多い箇所から始めるという意図で地域の選定を行った。効果が実証されれば市内全域を視野に検討も進められると考えている。

- ・刀剣博物館には多くの方が訪れるが、そのほとんどは岡山市に宿泊をしている。観光協会がその需要を牛窓に持っていきたいと巡回バスを出したり、タクシー業者さんに協力頂いた結果、約 111 名が牛窓に宿泊をしていただけた。

長船での観光の後、岡山市に戻る方、家に帰る方もいると思うが、宿泊の需要が拾えるよう検討を続けていただきたい。

→貴重な情報。参考にさせていただく。

5. その他

- ・「岡山県地域公共交通ビジョン」の策定について、資料に基づき説明。

6. 閉会

- ・まずは一度バスに乗っていただくこと、そのハードルを超えるための各種施策を実践・検討中。公共交通に限らず官民連携を進めるための体制づくりも推進している。

引き続きご協力をお願いしたい。

以上